

### 第3回情報セキュリティ政策会議にあたっての意見

2005年12月13日  
(株)イプシ・マーケティング研究所  
代表取締役社長 野原 佐和子

短期間に充実した報告書や計画をまとめていただき、これまでの事務局及び関係者に皆様のご努力に感謝します。さらに以下の点を考慮して、今後の検討を進めていただきたい。

#### 1. 「情報セキュリティ先進国」「Japan Model」の特徴を共有し、海外にアピールするためのキーワード、キャッチフレーズを

基本計画に記述されているとおり、「情報セキュリティ先進国」となること、そして、我が国の取り組みを「ジャパンモデル」として世界に展開していくことは重要である。

そこで、基本計画の趣旨を国内で共通認識するとともに、海外にアピールするために、「情報セキュリティ先進国」「Japan Model」の特徴を共有するためのキャッチフレーズの策定を提案したい。わかりやすいキャッチフレーズを作り訴求することによって、各プレイヤーの共通認識が得られるだけでなく、広く社会全般に趣旨を浸透させることができ、海外メディアにも訴求しやすい。

##### キャッチフレーズ案

- ・セキュア・ジャパン(日)、Secure Japan---for making Trustworthy Society(英)
- ・Security Consciousness
- ・S-Power p;personal, o;organization, e;enterprise, r;responsibility
- ・S-value
- ・高信頼性社会
- ・セキュリティ・エコシステム

#### 2. まず政府機関が率先して対策を推進し、各府省庁の評価結果を公表

基本計画に、「政府は、1)2008年度までに政府機関統一基準のレベルを世界最高水準のものとし、かつ2)2009年度初めまでには、全ての政府機関において、政府機関統一基準が求める水準の対策を実施していることを目指す」とあり、情報セキュリティ先進国に向けて、政府機関が率先して対策を推進するという意志表明ととらえ、このスタンスを高く評価したい。

そのための施策として、PDCAサイクルを確立することが重要だが、その過程をできる限り情報開示することが望ましいのではないか。PDCAサイクルでは、各府省庁の取り組み状況を check するが、その各府省庁の評価結果をできる限り公表していただきたい。

#### 3. 個人の対策では、負担感なく利用できる環境整備が重要

個人に対する対策としては、情報セキュリティ教育、広報啓発活動が重要なことは言うまでもないが、それ以上に重要なことは、個々人が負担感なく利用できる環境を構築することである。

例えば、第三者による盗聴やネットワークへの侵入が問題となった無線 LAN は、個人への啓発不足というより、デフォルト PWD なしでサービス提供したことが原因と考えられる。ウィルス対策は各自が主体的に行うだけでなく、ISP やパソコンメーカーがデフォルトで提供すべきではないか。個々人が情報収集をして最適な情報セキュリティ環境を整備するというのではなく、サービス提供サイドが安心して利用できる環境を提供すべきである。

一方で、情報リテラシーは個人格差が極めて大きいので、対象ユーザーのリテラシーレベルによって、望ましいサービス提供環境も異なってくることを考慮する必要がある。